

1. テーマ

「蓄積したデータを学生サポートに活かす」

～無気力学生・退学者を出さないためのサポートを教職協働で行う～

2. テーマ設定理由

近年、学生と接する職場において、無気力学生および退学者が増加傾向にあると感じることがあるなか、これらの学生へのサポートを行うにあたり、授業を担当する教員と学生生活を支援する職員、また部署の異なる職員同士が、協働して学生のサポートをすることが難しい体制にあるという問題意識を持った。これらの問題を解決するために、情報技術を活用できないか議論を行い、「蓄積したデータを学生サポートに活かす診断書作成」を提案することとした。

3. 討議内容

大小さまざまな規模の大学のグループメンバーで討議を行うなか、比較的小規模な大学ではすでに学生に対して個別に手厚いサポートがなされており、対して大規模大学では分業化が進み学生への個別対応が難しい現状があることがわかった。

そこで、「情報技術を活用することで、小規模大学でできることをより規模の大きい大学で実現できないか」という視点で、情報技術の活用について議論を行った。

提案内容の議論においては、メンバー間でより具体的なイメージを持つために、7 学部、学生数約 1 万人の文理総合大学を想定し、課題の洗い出し・解決に向けた方策について議論を進めた。

(1) サポートを行う学生（無気力学生・退学者）はどのような学生か

- ・第一志望の大学に入学できず、不本意入学した学生。
- ・入学後、やりたいことが見つからない学生。
- ・入学後のガイダンス時期に友人ができないなど、大学生活に馴染めない学生。
- ・単位取得数が少なく、進級および卒業が危ぶまれる学生。

(2) 情報技術をどんな場面で活用するか

①早期発見

まず、上記（1）に挙げるような学生の予備軍を早期発見する必要があるため、そのために情報技術を活用する。

②学生指導

教職員間で学生の情報を共有するために IT を利用する。（指導は対面で直接行う）

4. 提案内容

(1) 無気力学生・退学者予備軍の早期発見

- ①下記 a～f のデータを各部署・教員より 1ヶ所に収集し、必要に応じて、条件を指定して支援対象者を抽出する仕組みを構築する。また、予備軍を洗い出すためにワーニングを出す仕組みも想定する。

【収集するデータ】

- a.授業への出席状況：出欠管理（担当：授業担当教員・教務/学部事務室）
- b.単位取得状況：成績データ（担当：教務/学部事務室）
- c.履修状況：履修データ（担当：教務/学部事務室）
- d.卒業見込み・進級判定：履修・成績データ（担当：教務/学部事務室）
- e.出身高校での学生の状況：入試・出身校データ：（担当：入試・教務/学部事務室）
- f.施設利用状況：図書館の入館ゲート等学生が利用する施設の利用記録（担当：図書館等）

(2) 学生指導のための情報技術利用

①診断書(Web)の作成

教職員間で指導を行う学生の情報を共有する（教職協働）。

→学生支援を専門に行う部署（学生支援センター）を新設し、学生一人ひとりの診断書を作成・管理し、学生指導に活用する。

診断書は Web での参照、紙（帳票）での出力を可能とし、学生指導の際の面談等にも利用する。診断書には、学生の基本情報や単位取得情報、担当教員からのコメント等を記載する。入力内容は、履歴管理を行い常時更新可能とし、入学～卒業までの学生指導の履歴を管理する。

支援対象の学生については、診断書を保護者にも送付する。また、情報の蓄積により、過去の事例を参考に学生指導を行うこともできる。

②教職員カルテ・コミュニティサイト（SNS など）の構築

教職員の情報を管理し、教職員間で閲覧可能とする。また、コミュニティサイトでは、教職員間の情報共有・交換を可能とする。

→教職員の情報を管理し、教職員間で閲覧可能とすることで、学生指導に適任の教職員（クラブ顧問・心理面でのサポートが可能等）を探することができる。

教職員の情報の管理・閲覧には、個人情報保護の観点から管理する情報・閲覧する権限、範囲等を検討し、規程やガイドライン等が必要と考える。

以上